
後ろの正面5

佐藤 秀俊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

後ろの正面 5

【Nコード】

N0578Z

【作者名】

佐藤 秀俊

【あらすじ】

後ろの正面第5話。主人公の思わぬ行動で誰もが産まれ持った真実を知ってしまう。

4回目はすぐに訪れた。

正一は点滴を外した。

点滴の針だけが残った。

それを見て母が駆け寄った。

想いが流れ込んだ。

（逝かないで！！

あんなにお腹を痛めて産んだのに！！

そんなに簡単に逝かないで！！

愛してるのよ！！

だからもし逝っても恨まない！！

苦しいなら苦しまずに逝って！！

私のものなんだから私の思っようになってよ！！

でも、逝くならせめて私に愛してると言ってからにして！！

それで良い。せめてそれだけでも。。

無理ね。全てを恨んでるんだもの。。

私のお腹の痛み。。

あなたの生きる意思だと感じたのは嘘だったんだわ。。

産んだ私を恨んでね。私はあなたを恨むから。

私から産まれたあなたは、私だとは思えない。

私があなを産んだのは私が私を愛したかったから。

母としてあなを認めれないのは、私が私を認めてないからよ!!

だから私を愛して!!!

正一は自分のことばかり考えていたことを知った。

そして正一の母はそれ以上に自分のことしか考えていなかった。

残った点滴の針からは血が吹き出していた。

すぐに医者が駆け付け処置をした。

無論、命に別状はなかった。

母は、何も喋らなかった。

点滴と、胃洗浄の気持ち悪さと、貧血による朦朧さが、やたら今の正一の気持ちとマッチしていた。

正一は誰も見ようとしても見れなかったものを見てしまった。

あの夢はもうどうでもよかった。

〓 終わり 〓

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0578z/>

後ろの正面5

2011年12月2日02時54分発行